



試験成績書第 23-5013 号

試験成績書

依頼者 住 所 神奈川県横浜市中区太田町 2-23
横浜メディア・ビジネスセンター5F

会社名又は団体名 チャンネルオリジナル株式会社

依頼試験の名称 内装ドアの性能試験

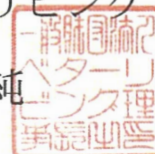
令和 5 年 6 月 27 日付契約した依頼試験について、一般財団法人ベターリビング
つくば建築試験研究センターにおいて試験を実施した結果は、本試験成績書に記載の
とおりである。

令和 5 年 12 月 15 日

東京都千代田区富士見 2 丁目 7 番 2 号
ステージビルディング

一般財団法人 ベターリビング

理事長 眞鍋 純



1. 試験目的

チャンネルオリジナル株式会社より試験依頼のあった内装ドアについて、優良住宅部品性能試験方法書(内装ドア BLT ID:2023)に示される試験を行い、内装ドアの性能確認を目的とする。

2. 試験体

試験体は、依頼者から提出された内装ドアである。試験体仕様を表-2・1、依頼者提出による試験体図を図-2・1に、試験体設置状況を写真-2・1に示す。

表-2・1 試験体仕様 ※依頼者提出資料より抜粋

扉の種類		開戸
扉の寸法		高さ 2050mm×幅 836mm×厚さ 35mm
試験体構成	縦棧の材質	無垢材
	上下棧の材質	無垢材
	中棧の種類	パーティクルボード
	表面材の処理	ウレタン塗装

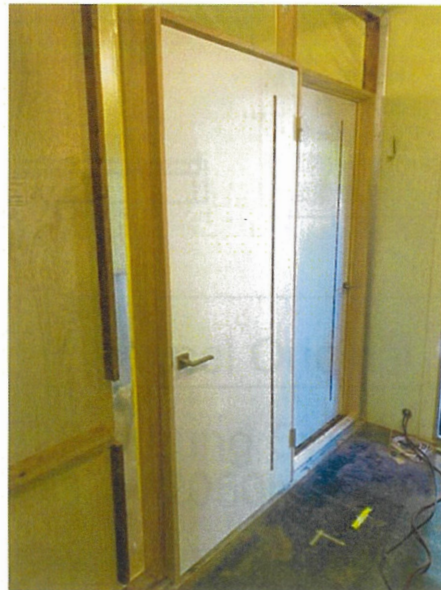


写真-2・1 試験体設置状況

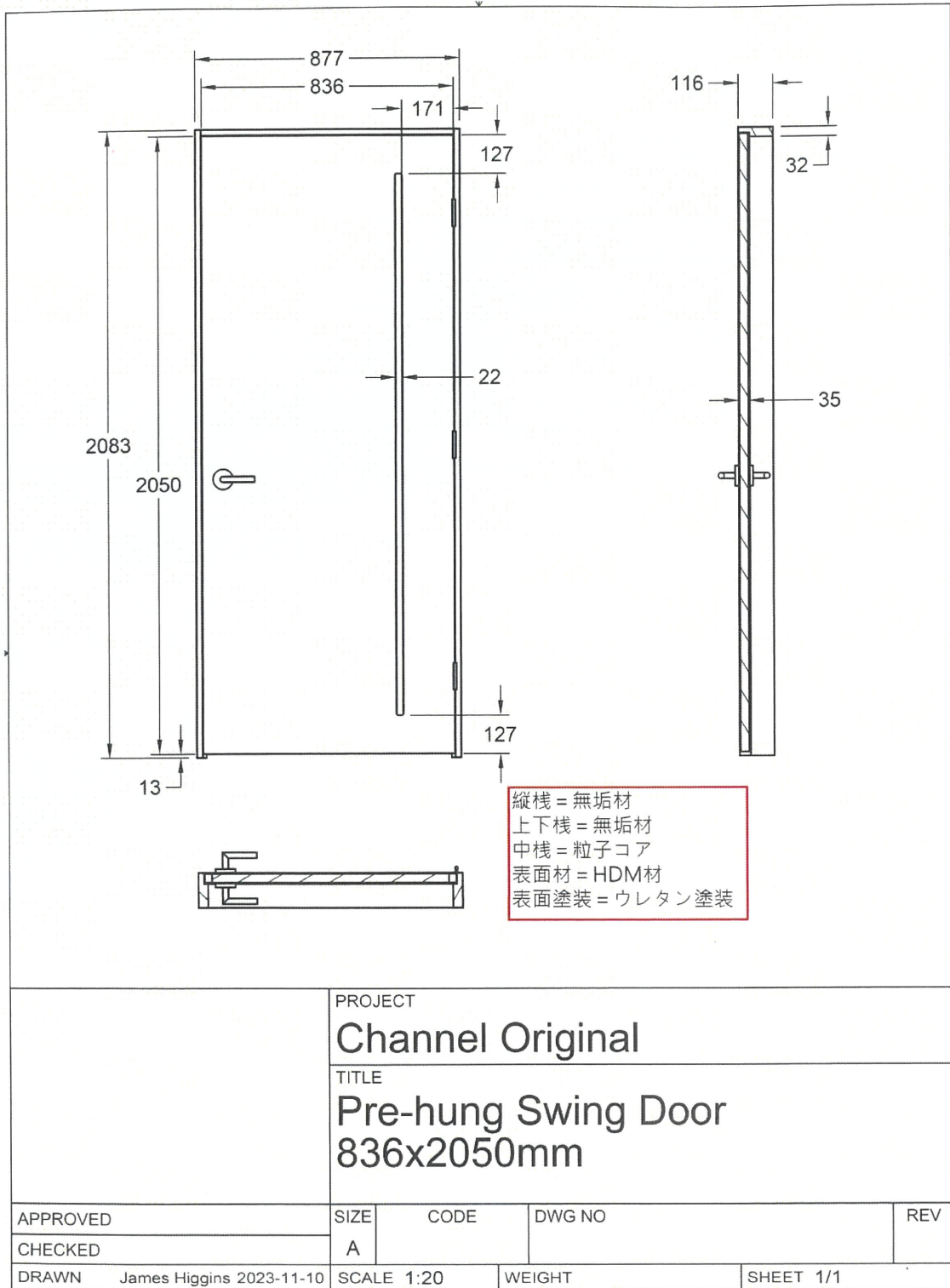


図-2.1 試験体図 (依頼者提出資料)

3. 試験方法

試験は、優良住宅部品性能試験方法書(内装ドア BLT ID:2023)に示される試験方法に従った。試験項目を表-3・1に、試験概要を図-3・1に示す。試験条件は、開き方向を高湿側とする条件(以下、条件Aという)と、閉じ方向を高湿側とする条件(条件Bという)の2条件とした。なお、条件Aと条件Bの試験体は並べて設置し、同時に試験を実施した。

表-3・1 試験項目

No	試験項目	試験番号 ^{*1}
1	加湿繰り返しによる変形試験	BLT ID-07

^{*1}試験番号は、優良住宅部品性能試験方法書(内装ドア BLT ID:2023)による。

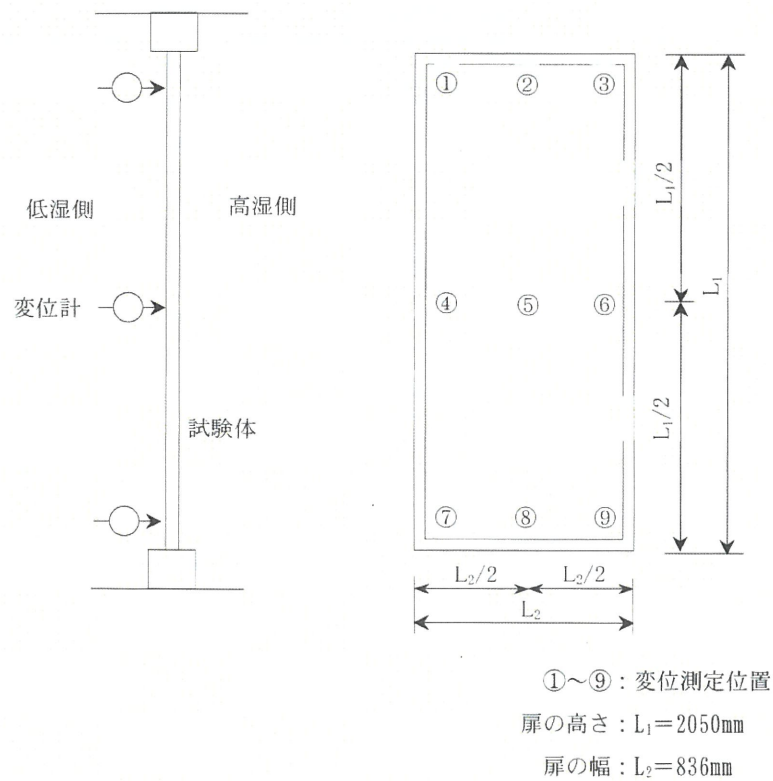


図-3・1 加湿繰り返しによる変形試験概要

4. 試験結果

試験結果一覧を表-4・1に示す。また、試験結果詳細を4-1に示す。

表-4・1 試験結果一覧

No.	試験項目	試験条件	試験結果		要求性能 ^{*1}	適否
1	加湿繰り返しによる変形試験 BLT ID-07	開き方向を 高湿側	各サイクルごとの 縦方向の最大面外変形	0.7mm	$L_1/200 (=10.3\text{mm})$ 以下 であること	適合
			各サイクルごとの 横方向の最大面外変形	0.2mm	$L_2/200 (=4.2\text{mm})$ 以下 であること	
			試験終了時の 状況	使用上支障をきたす 反りなし	使用上支障をきたす ような反りがないこと	
		閉じ方向を 高湿側	各サイクルごとの 縦方向の最大面外変形	1.2mm	$L_1/200 (=10.3\text{mm})$ 以下 であること	適合
			各サイクルごとの 横方向の最大面外変形	0.1mm	$L_2/200 (=4.2\text{mm})$ 以下 であること	
			試験終了時の 状況	使用上支障をきたす 反りなし	使用上支障をきたす ような反りがないこと	

*1 要求性能は、優良住宅部品性能試験方法書(内装ドア BLT ID:2023)による。

4-1 加湿繰り返しによる変形試験結果

加湿繰り返しによる変形試験の試験結果を表-4.2 および表-4.3 に示す。また、面外変形－経過時間曲線を図-4.1 および図-4.2、温度－経過時間曲線を図-4.3、湿度－経過時間曲線を図-4.4 に示す。

表-4.2 加湿繰り返しによる変形試験結果 (条件 A)

サイクル	最大面外変形(mm)		終了時変位(mm)	
	縦方向 面外変形 ^{*1} δ_1	横方向 面外変形 ^{*2} δ_2	縦方向 面外変形 ^{*1} δ_1	横方向 面外変形 ^{*2} δ_2
1	0.38	0.11	0.12	0.01
2	0.50	0.12	0.19	0.01
3	0.56	0.14	0.23	0.05
4	0.59	0.16	0.31	0.07
5	0.67	0.20	0.34	0.09

試験後状況	表面および裏面ともに、使用上支障をきたすような反りなし
-------	-----------------------------

^{*1}縦方向面外変形 $\delta_1 = \text{⑤} - (\text{②} + \text{⑧}) / 2$ ②、⑤、⑧: 図-3.1に示す位置で計測した変位量

^{*2}横方向面外変形 $\delta_2 = \text{⑤} - (\text{④} + \text{⑥}) / 2$ ④、⑤、⑥: 図-3.1に示す位置で計測した変位量
(要求性能)

各サイクルごとの最大面外変形が $L/200$ (縦方向: 10.3mm、横方向: 4.2mm) 以下であること。
使用上支障をきたすような反りがないこと。

表-4.3 加湿繰り返しによる変形試験結果 (条件 B)

サイクル	最大面外変形(mm)		終了時変位(mm)	
	縦方向 面外変形 ^{*1} δ_1	横方向 面外変形 ^{*2} δ_2	縦方向 面外変形 ^{*1} δ_1	横方向 面外変形 ^{*2} δ_2
1	1.12	0.13	0.29	-0.04
2	1.21	0.10	0.32	-0.06
3	1.17	0.02	0.34	-0.09
4	1.15	0.01	0.33	-0.13
5	1.17	0.00	0.34	-0.14

試験終了時状況	表面および裏面ともに、使用上支障をきたすような反りなし
---------	-----------------------------

^{*1}縦方向面外変形 $\delta_1 = \text{⑤} - (\text{②} + \text{⑧}) / 2$ ②、⑤、⑧: 図-3.1に示す位置で計測した変位量

^{*2}横方向面外変形 $\delta_2 = \text{⑤} - (\text{④} + \text{⑥}) / 2$ ④、⑤、⑥: 図-3.1に示す位置で計測した変位量
(要求性能)

各サイクルごとの最大面外変形が $L/200$ (縦方向: 10.3mm、横方向: 4.2mm) 以下であること。
使用上支障をきたすような反りがないこと。

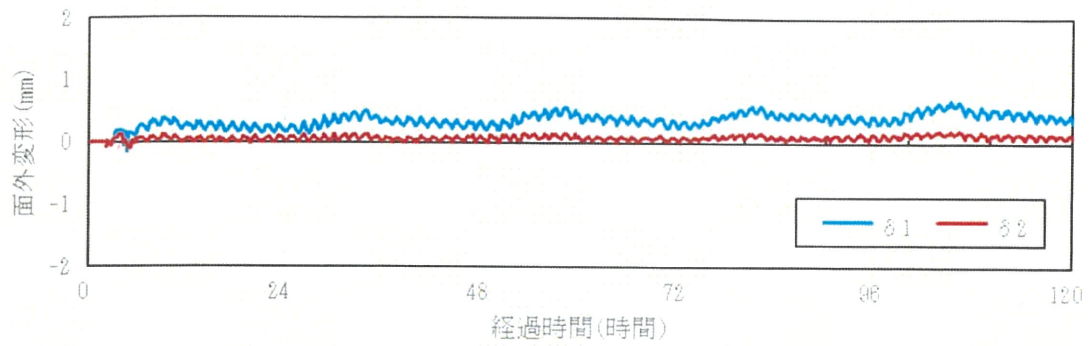


図-4.1 面外変形—経過時間曲線 (条件 A)

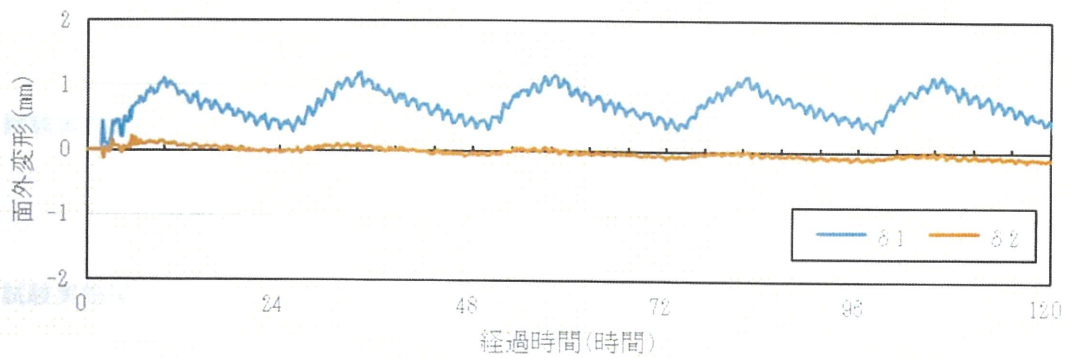


図-4.2 面外変形—経過時間曲線 (条件 B)

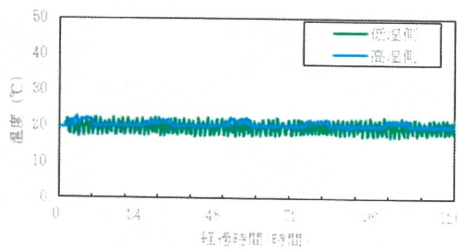


図-4.3 温度—経過時間曲線

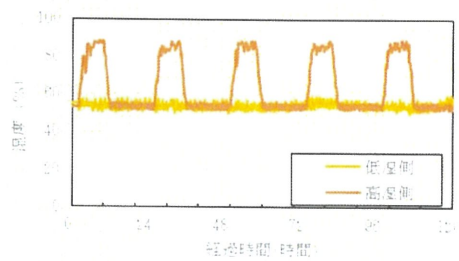


図-4.4 湿度—経過時間曲線

5. 試験担当者

つくば建築試験研究センター

統括技術管理者

所 長

佐久間 博文

技術管理者

性能試験研究部長

佐久間 博文

試験責任者

性能試験研究部 主席試験研究役 大野 吉昭

試験実施者

性能試験研究部 主任試験研究役 田井 秀迪

6. 試験実施日

令和 5 年 9 月 1 日～令和 5 年 9 月 6 日

7. 試験実施場所

一般財団法人ベターリビング つくば建築試験研究センター

住 所：〒305-0802 茨城県つくば市立原 2 番地

電話番号：029-864-1745 FAX 番号：029-877-0050